



2022年9月15日

各 位

会 社 名 オンコリスバイオフーマ株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 浦田 泰生  
(コード番号：4588)  
問 合 せ 先 取 締 役 吉村 圭司  
(TEL.03-5472-1578)

## 当社投資先であるプレシジョン社に関するお知らせ

当社は、投資先である米ワシントン大学発バイオ企業 Precision Virologics Inc.（米国ミズーリ州、以下「プレシジョン社」）が事業を停止し、2022年9月に清算が完了した旨の連絡を受けましたので、お知らせします。

当社は2017年3月開催の取締役会において、当社の事業領域である重症感染症パイプラインに治療法の確立されていない熱帯病ワクチンを追加することを目的として、プレシジョン社への投資を決定しました。当社はプレシジョン社の株式を引受け、その対価としてプレシジョン社が開発する全てのパイプラインのアジアでの第一拒否権を取得するとともに、現在まで取締役1名を派遣しました。

プレシジョン社は創業以来、ジカ熱ウイルスワクチンをはじめとする様々な熱帯病ワクチンの開発に取り組みましたが、いずれのプロジェクトについても自社にて臨床試験段階まで進めることができませんでした。2020年9月には、新型コロナウイルス感染症に対する経鼻吸入ワクチンの日米欧のオプション権をワシントン大学から獲得し、同ワクチンの開発に注力することを決定しました。これとは別に、インドのBharat社が同ワクチンの日本を除くアジア地域での開発及び商業化の権利をワシントン大学から獲得し、開発を進めました。この状況の下、プレシジョン社は同社との提携を試みましたが、進展しませんでした。

2021年11月に当社は、Bharat社が進めていた同ワクチンのPhase 1臨床試験の結果が想定よりも良好なものではなく開発継続が困難な状況である、とのプレシジョン社の判断を入手しました。当社はプレシジョン社の事業価値の低下を認識し、2021年12月期に同社株式90百万円を減損処理し、特別損失に計上しています。

今回のプレシジョン社の事業清算により、当社は同社が保有する全てのパイプラインのアジアでの第一拒否権を喪失しましたが、同社株式の減損処理は過年度に終了しているため、本件による当社業績への影響はありません。

以 上